

# Br. Holdings Report

## 第16期 年次報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日



# 「人と人」「技術と技術」の橋渡し

欧州統一通貨ユーロ紙幣に描かれている

コミュニケーションを象徴する「Bridge」

ビーアールホールディングスは未来への架け橋を創る企業技術集団を擁する

ホールディング・カンパニーとして、企業価値の最大化、資本効率の更なる向上を

目指すとともに、技術で社会に貢献する企業グループとして、これからもたゆまぬ努力をし続けます。





代表取締役社長

藤田 公康

## Profile

(株)ビーアールホールディングス  
代表取締役社長 藤田 公康  
(昭和25年9月9日生)

昭和49年 慶応義塾大学法学部  
政治学科卒業  
昭和51年 ハートフォード大学  
経営学部修士課程卒業  
(MBA)  
昭和51年 大塚製薬(株)入社  
企画課長  
昭和56年 極東工業(株)(現極東興和(株))  
入社 取締役社長室長  
昭和60年 同社代表取締役社長  
平成5年 同社代表取締役会長  
平成14年 当社取締役  
平成17年 当社代表取締役社長(現任)

### <兼職>

昭和63年 (社)広島青年会議所 理事長  
平成2年 (社)日本青年会議所 会頭  
平成27年 極東興和(株)  
代表取締役社長

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第16期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動をご報告させていただきます。

### 1. 過去最高の受注額を達成

当社グループの建設事業及び製品販売事業におきまして、期首手持高が28,774百万円(前年度期首手持高21,993百万円)と30.8%増加して始まりました。プレストレストコンクリート建設業協会の平成29年度各社受注総額は3,010億円(前年度受注額3,012億円)とわずかながら減少しましたが、当社グループの受注額は37,451百万円(前年度受注高31,465百万円)と19.0%増加し、過去最高の受注額となりました。また、新規の橋梁建設は徐々に減少していますが、日本高速道路各社の大規模更新・大規模修繕が15年計画の4年目に入り、発注量が対前年同期比で増加するなど、橋梁の補修・補強分野は今後とも市場の拡大が見込めます。鉄道分野では北陸新幹線金沢・敦賀間で、北島橋りょう、第二中ノ江橋りょう及び白山・加賀間軌道スラブ、また、九州新幹線長崎ルートで大村・長崎間軌道スラブを受注いたしました。リニア中央新幹線では自立式ガイドウェイ(関東地区)を受注するなど、今後とも安定した増収増益基調を維持できる見込みであります。

### 2. 3期連続の増配を目指す

平成30年3月期の当社グループの業績は、復旧・復興事業や、橋梁の長寿命化修繕計画に真摯に取り組み、受注は増加しましたが、売上高は23,669百万円(対前年同期比2.9%減)となりました。営業利益は1,674百万円(対前年同期比22.0%増)、経常利益は1,632百万円(対前年同期比22.8%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は1,025百万円(対前年同期比14.0%増)となり、過去最高益を更新しました。この業績を受け、1株当たり2.5円と計画しておりました期末配当を3円と増配させていただきました。また、次年度の配当は年間7円(中間3円)と3期連続の増配を見込んでおります。

### 3. 21件の共同研究が進行中

当社グループは長期的な人材育成に取り組んでおり、今年度も広島県のイノベーション人材育成事業補助金を活用し、国内で博士課程に2名の職員を派遣しております。また、国内13大学や6団体・企業と21件の共同研究が進行中で、先行するマイクロパイル工法やK-LIP(亜硝酸リチウム)工法など、徐々に成果をあげつつあります。

### 4. 7期連続の増益を達成

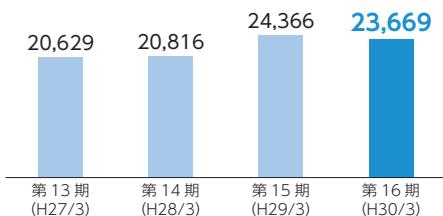
当事業年度は期首手持高が対前年同期比で30.8%増加し、期中の受注も順調に推移したため、期末の手持高は42,271百万円(対前年同期比46.9%増)と、過去最高を記録することができました。その結果、3期連続の受注増、親会社株主に帰属する当期純利益は7期連続の増益となりました。これもひとえに、株主の皆様、お取引先様をはじめ、関係者の皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当社は、「技術で社会へ貢献する」企業グループとして、これからも、企業価値の最大化に努め、資本効率のさらなる向上を目指し、より多くの皆様のご期待にお応えできるよう邁進してまいりますので、引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

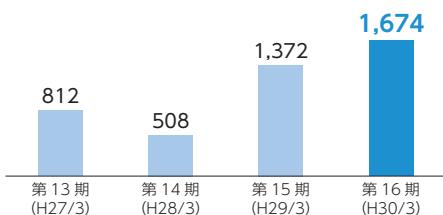
## 売上高

(百万円)



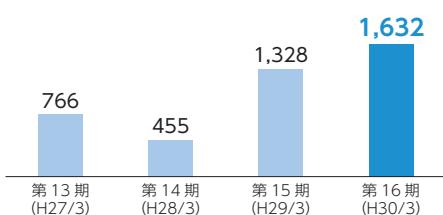
## 営業利益

(百万円)



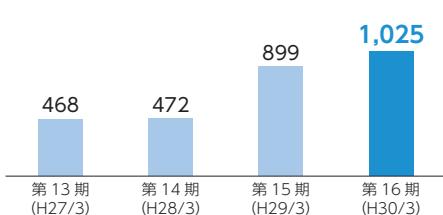
## 経常利益

(百万円)



## 親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



## 建設事業

橋りょう土木工事の設計・施工

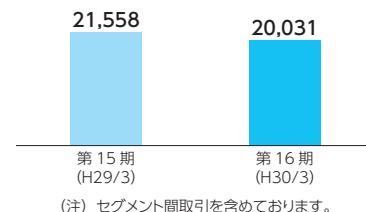
売上高 200億31百万円

前年同期比 7.1%減

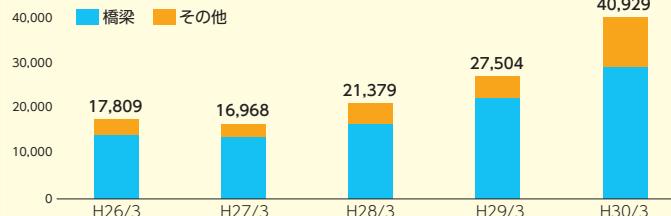


建設事業におきましては、鉄道建設・運輸機構を中心とした大型工事の受注が好調で、当連結会計年度の受注高は334億56百万円(前年同期比20.9%増)となりました。主な受注高といたしましては、鉄道建設・運輸機構発注の北陸新幹線白山・加賀間軌道スラブ(請負額42億94百万円)、九州新幹線(西九州)大村・長崎間軌道スラブ(請負額24億10百万円)等で、次期繰越の手持高は、409億29百万円と過去最高額を記録しております。一方、手持工事の進捗が伸びず売上高につきましては、200億31百万円(前年同期比7.1%減)となりましたが、粗利益の増加及び不採算工事の減少等によりセグメント利益につきましては、24億75百万円(前年同期比24.8%増)となりました。

## 建設事業／売上高 (百万円)



## ○手持高(建設事業)の推移 (百万円)



## 製品販売事業

コンクリート二次製品の販売

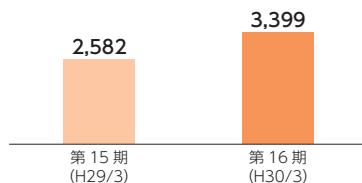
売上高  
**33億99**百万円

前年同期比  
**31.7%**増



製品販売事業におきましては、当連結会計年度の受注高は34億70百万円(前年同期比7.2%増)となりました。また、建築部材の出荷数量が増加したことにより、売上高は33億99百万円(前年同期比31.7%増)となりましたが、労務単価の上昇及び不採算案件の発生等により、セグメント利益は97百万円(前年同期比50.8%減)となりました。

### 製品販売事業／売上高 (百万円)



(注) セグメント間取引を含めております。

## 情報システム事業

システム開発・販売

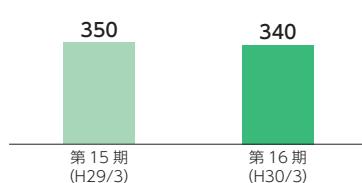
売上高  
**3億40**百万円

前年同期比  
**2.6%**減



情報システム事業におきましては、国内のIT関連需要は増えてきており、既存顧客企業のIT投資が徐々に増えておりますが、企業収益や設備投資の格差、都市部と地方の格差などまだ模様で不透明な状況が続いております。当連結会計年度の売上高は3億40百万円(前年同期比2.6%減)、セグメント利益は1百万円(前年同期比81.4%減)となりました。

### 情報システム事業／売上高 (百万円)



(注) セグメント間取引を含めております。

## 不動産賃貸事業

当社ビルのマンション賃貸運営等

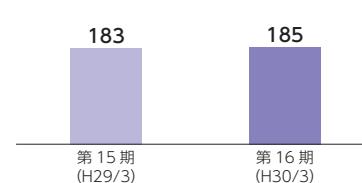
売上高  
**1億85**百万円

前年同期比  
**1.0%**増



不動産事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当連結会計年度の売上高は1億85百万円(前年同期比1.0%増)、セグメント利益は1億27百万円(前年同期比1.7%増)となりました。

### 不動産賃貸事業／売上高 (百万円)



(注) セグメント間取引を含めております。

## Topics 1

### 桃観大橋 極東興和株式会社

桃観大橋は、山陰近畿自動車道(鳥取豊岡宮津自動車道)の一区間である、延長9.8kmの浜坂道路東側に位置し、起点及び終点側を山岳トンネルに挟まれた急峻な地形に架橋する橋梁です。浜坂道路においては、平成26年度に施工した瀬間大橋に続いて2橋目となり、いずれも構造形式は、3径間連結バルブT桁橋(5主桁)です。この区間においては、平成29年11月に供用開始しました。本工事の施工上の課題としては、橋梁に交差する国道178号線の迂回路が確保できないため、いかに最小限の通行規制で架設作業を安全に行うか、ということでした。作業時間帯は23:00~5:00までとし最大15分の通行止めを行い、綿密な施工サイクルのもと各施工ステップ毎に、細心の注意を払い、安全対策(架設機械の固定、桁の固定等)を行いながら施工を行った結果、苦情等も無く、円滑に無事故で架設作業を完了し、施主からも高評価をいただきました。



## Topics 2

### 上武大橋床版 極東興和株式会社



上武大橋は、埼玉県発注の群馬県伊勢崎市と埼玉県深谷市を結び利根川に架かる橋梁です。現橋は、昭和9年に架設された橋梁で老朽化が著しく、幅員が狭いため大型車のすれ違いが困難な状況であり経済面を考慮し橋梁の架け替えが行われました。新しい橋梁は、橋長888m 総幅員12m、13径間連続細幅合成箱桁橋で当社はこの内床版工事を施工いたしました。床版工事は、3工区に分割発注され当社は中央の工区を担当し、施工範囲の大部分が流水域上であり架設はPC版架設機による工法を採用しました。また、増水期間の施工でもっとも条件の悪く、地元・発注者・同業他社・協力業者と良好な関係を築くことで平成29年10月に無事故無災害で工事を完了し発注者から高い評価をいただきました。



## Topics 3

## 船穂高架橋 極東興和株式会社



船穂高架橋及び船穂ONランプ高架橋は、岡山県倉敷市における倉敷立体事業の一環として、倉敷市船穂町に架かる橋梁です。倉敷立体事業は、平成19年度から事業を開始し、一般国道2号の倉敷市新田から倉敷市船穂町船穂に至る延長7.7kmの区間において、4車線化を行う事業です。この地区では、高梁川大橋の西詰め及び東詰めの合流点で、慢性的な交通混雑が発生しています。4車線化により交通容量を拡大させることで、倉敷市中心部の交通混雑が緩和されるとともに、沿道環境が改善されることなどが期待されています。本橋梁構造形式は、連結PCプレテンション方式T桁橋で、本線区間5径間(船穂高架橋)とONランプ区間6径間(船穂ONランプ高架橋)を施工しました。住宅密集地における工事となりましたが、施工方法の改善等による工程短縮の実施や、地域住民とのコミュニケーションを円滑に行うため、地域行事への参加、現場見学会の開催等を実施し、発注者からは、高い評価をいただきました。



## Topics 4

## 嫁島高架橋下部工補修工事 極東興和株式会社



嫁島高架橋は、島根県松江市のJR松江駅の南側3kmほどの所にあり、日本夕日百選に選ばれた宍道湖の『嫁ヶ島』が目前にあります。本橋は、JR線を跨ぐ跨線橋として昭和56年に建設された橋長320m(14径間)のプレストレストコンクリート橋です。

本工事は、松江市役所から発注されたもので、橋脚に生じたアルカリリ骨材反応によるひび割れの恒久対策としてASRリチウム工法が採用されました。施工中に現場見学会を開催しましたが、島根県での採用実績が増加していることから関心が高く多数の参加者があり活発な質疑応答がなされました。



## 地域の安全・安心への取り組み

### 1 大島架橋

東日本コンクリート株式会社

大島架橋事業は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の大津波によって気仙沼大島が数週間孤立したことから、その必要性・重要性が再認識され事業が本格化しました。本事業のシンボルとなる気仙沼大島大橋は、JFE・橋本店・東日本コンクリート特定企業体にて橋梁上下部工事を受注し、当社は下部工を担当しました。本橋は橋長356m、支間長297m、幅員9.5mの鋼中路式アーチ橋で、国内では2番目に長い支間長となっています。平成27年2月に下部工から施工を開始し、平成29年11月に完成しました。上部工の架設はNHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」でも取り上げられています。大島架橋は大島住民の命の懸け橋としての機能とともに、

震災復興の象徴としての役割も担っており、愛称を「鶴亀大橋」として平成31年春の全線開通が待たれています。



### 2 ガスホルダー・ダンパー基礎補強工事

極東興和株式会社

ガスは生活のライフラインの1つですが、地震が発生しガス施設が倒壊してしまったらとても甚大な事故となること、人々の生活においても大きな支障をきたすこととなることは容易に想像できます。そうならないた



めにガス会社では、今日起こるかもしれない大地震への対策として既に稼働している既設設備の耐震補強に取り組んでいます。

本工事は、ガスを貯蔵するガスホルダーの基礎耐震補強工事となりますが、ガス施設内の狭い地での施工が可能である工法、また、周辺を住宅で囲まれた都市部に建設されていることから騒音振動を抑えられる杭工法としてSTマイクロパイル工法(タイプI)が採用されました。都市ガスの安全と安定供給に貢献できた工事です。

## 地域活動への協賛

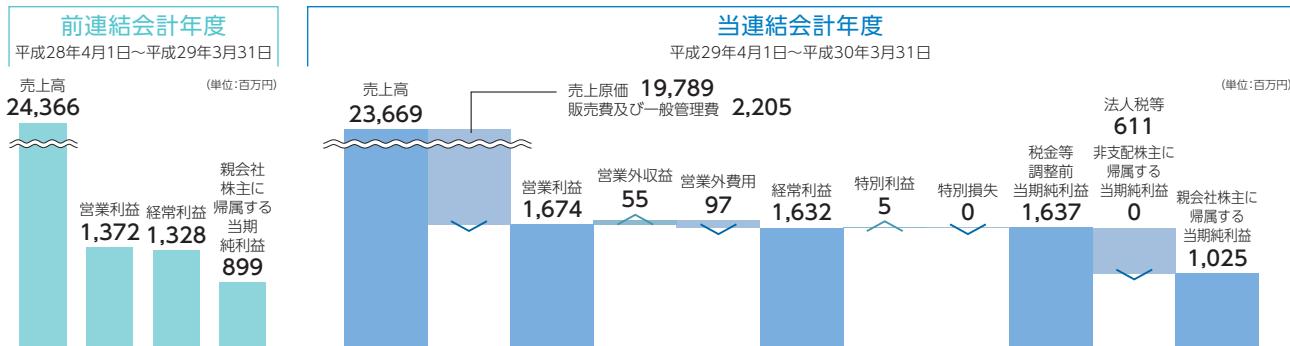
### 3 島と島を 橋でつなぐ海の道 「しまなみ海道」

極東興和株式会社

当社グループでは、社会貢献の観点から「しまなみ海道自転車道利用促進協議会」が取り組むサイクリングロードへのセーフティマット設置事業への協賛を通じ、利便性の向上や地域の活性化を応援しています。



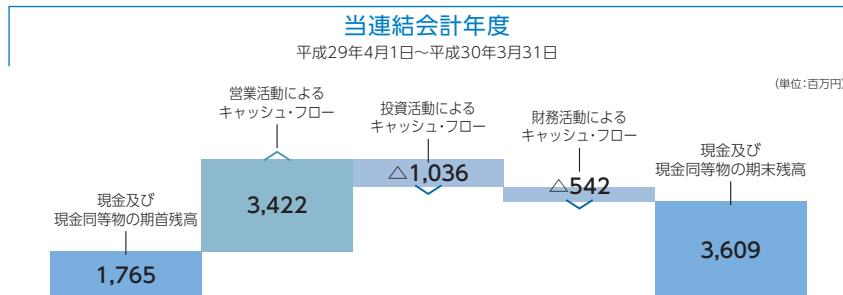
## ■ 連結損益計算書



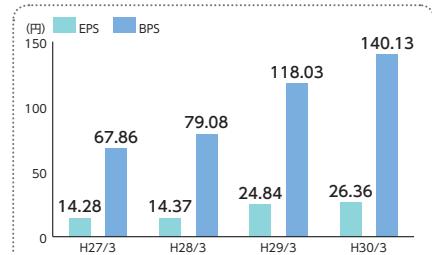
## ■ 連結貸借対照表



## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書



## ■ 1株当たり 当期純利益(EPS)、純資産(BPS)



(注)当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。平成27年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期純利益」「1株当たり純資産」を算定しております。

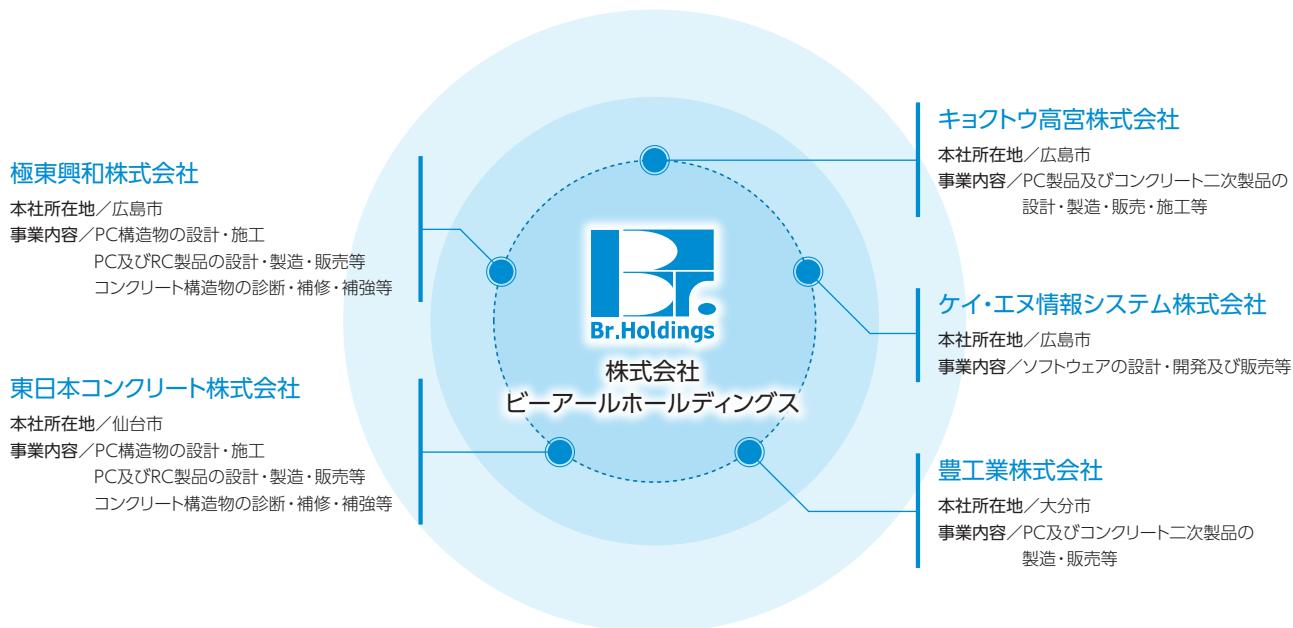
## 会社概要 (平成30年3月31日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	3,017,041,000円
決算期	3月31日
従業員数	12名(連結521名)

## 代表者及び役員 (平成30年6月22日現在)

代表取締役社長	藤田 公康
取締役	多賀 邦行
取締役	山根 隆志
取締役	山 縣 修
取締役	石井 一生
取締役	天津 武史
取締役・常勤監査等委員	藤 並 信幸
取締役・監査等委員(社外)	小 田 清和
取締役・監査等委員(社外)	佐 上 芳春

## グループの概況 (平成30年3月31日現在)



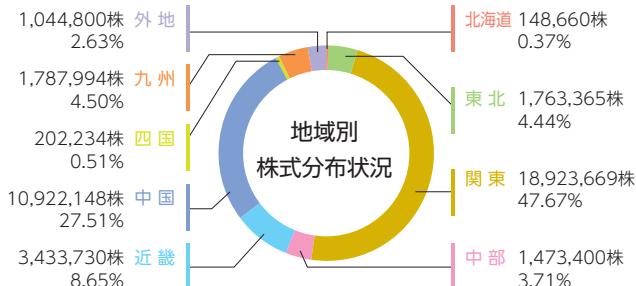
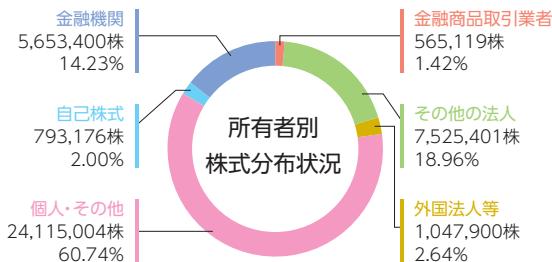
## 株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数……………120,000,000株  
 発行済株式の総数……………39,700,000株  
 株主数……………33,470名

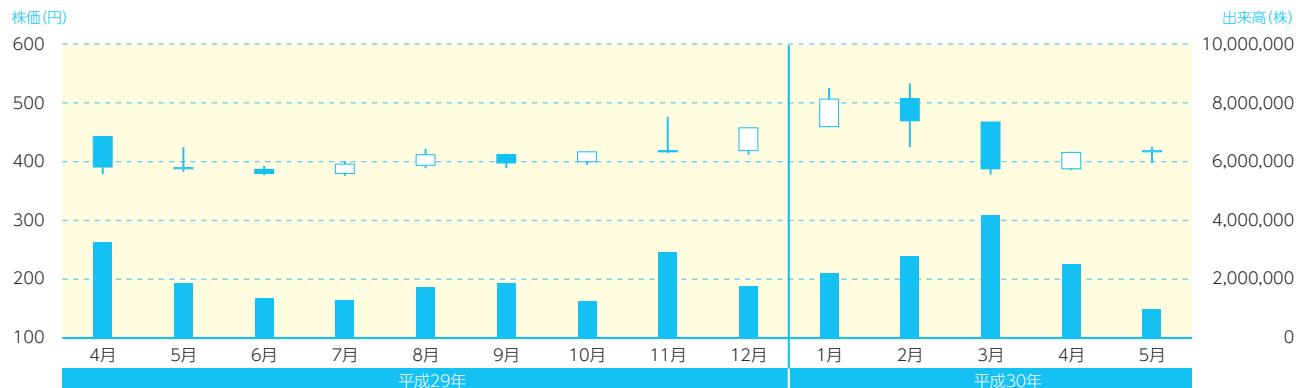
### 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
トウショウ産業株式会社	4,800	12.34
藤田公康	2,695	6.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,870	4.81
ビーアールグループ社員持株会	1,265	3.25
ビーアールグループ取引先持株会大阪支部	1,021	2.63
広成建設株式会社	988	2.54
ビーアールグループ取引先持株会広島支部	959	2.47
株式会社三菱東京UFJ銀行	800	2.06
遠藤祐子	713	1.83
藤田衛成	700	1.80

(注1)持株比率は自己株式(793千株)を控除して計算しております。  
 (注2)株式会社三菱東京UFJ銀行は平成30年4月1日に名称を「株式会社三菱UFJ銀行」に変更しております。



## 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第1部)
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ ( <a href="http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html">http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html</a> )にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。)

### 表紙写真について

#### 八軒家浜PC浮棧橋(大阪市中心区)

コンクリートの函を浮かせ、  
水辺の賑わいを演出

発注者：大阪府



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

